

景観まちづくり刷新支援事業 事後評価カルテ

事業名 (箇所名)	高松市景観まちづくり刷新事業			担当課	創造都市推進局 観光交流課 観光エリア振興室		事業 主体	高松市		
				担当室長	津山 裕司					
実施箇所	高松市景観まちづくり刷新モデル地区									
該当基準	事業完了後、一定期間が経過した事業(5年以内)									
評価実施年度	令和6年度									
主な事業の諸元	高松市屋島山上交流拠点施設整備、景観配慮型道路施設整備、ウェルカムロード整備、駐車場整備、登山道・遍路道整備、栗林公園周辺整備									
事業期間	事業採択	平成29年度	事業完了	令和4年度						
総事業費(億円)	採択時	20.5	完了時	20.1						
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高松市(以下、「本市」という)の観光地区の一つである屋島地区は、国の史跡・天然記念物に指定されるなど、日本初の国立公園(瀬戸内海国立公園)として豊かな自然や文化遺産を有しており、屋島の特性や価値を将来にわたり継承しながら、地域の活性化を図ることが求められている。</li> </ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋島と中心市街地における貴重な観光資源が連携することにより、インバウンドの増加等による集客力を向上させる。</li> <li>域内消費の拡大及び地域活性化により地域経済の底上げを図る。</li> </ul> <p>&lt;政策体系上の位置付け&gt;:第7次高松市総合計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標3:魅力ある資源をいかし、都市の活力を創造するまち (政策①:人と活力であふれる産業の振興、政策②:地域活力の創造、政策③:文化芸術・スポーツの振興)</li> <li>目標5:都市機能と自然が調和し、快適さと利便性を兼ね備えたまち (政策①:機能性の高い都市空間の形成、政策②:交流・連携を支える都市交通の充実、政策③:環境と共生する脱炭素社会の実現)</li> </ul>									
事業全体の投資効率性	B:総便益(億円)	285.6	C:総費用(億円)	46.5	全体B/C	6.1	B-C	239.1	EIRR(%)	29.0
感度分析 (費用+10%、便益-10%)	B:総便益(億円)	257.1	C:総費用(億円)	51.2	全体B/C	5.0	B-C	205.9	EIRR(%)	25.2
評価の視点	評価の項目	評価の内容								
費用対効果の算定基礎となった要因の変化	費用対効果の算定基礎となった要因の変化	<p>費用対効果分析の結果、事業採択時の費用便益比を上回る結果が得られ、事業の効果が十分認められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民の意識に与える効果:5.5億円/年(事業完了時、CVM) 1.8億円/年(事業採択時、CVM)</li> <li>観光客の行動に与える効果:6.4年(事業完了時、TCM) 3.5億円/年(事業採択時、TCM)</li> <li>総便益:285.6億円(事業完了時) 107.8億円(事業採択時)</li> <li>総費用:46.5億円(事業完了時) 20.5億円(事業採択時)</li> <li>費用便益比:6.1(事業完了時) 5.3(事業採択時)</li> </ul> <p>※事業採択時の総費用及び費用便益比は、事業採択時の資料をもとに算出</p>								
事業の効果の発現状況	景観の刷新性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の実施による、観光拠点の整備やアクセス道路の修景等により、景観の質や魅力の向上が図られた。</li> <li>屋島山上拠点施設等は、「令和5年度都市景観大賞(都市空間部門)の大賞(国土交通大臣賞)」や「日建連第65回BCS賞(一般社団法人日本建設業連合会)」を受賞しており、美しく優れた景観へと刷新が行われた。</li> </ul>								
	地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出等の影響により、本事業に掲げた目標値はいずれも未達成となったものの、屋島山上来訪者数や市民満足度調査は事業実施前と比較し大きく上回っている。</li> <li>屋島の観光入込客数は、市内全域に比べ回復基調が強い傾向となっていることから、屋島の再生を主とした本事業は、モデル地区における地域活性化においてある一定の効果を与えたものと考えられる。</li> <li>屋島山上のイベントの参加者数は、コロナ禍前の2倍以上の水準に達しており、市民活動やイベントの活性化に大きく貢献している。</li> <li>民間による屋島の活性化や空間整備に向けた新たな投資が進んでおり、賑わいの創出にもつながっている</li> </ul>								
	その他の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>源平屋島地域運営協議会等による長年のPR活動の結果、屋島のPRサイトへのアクセス数は堅調な伸びを示している。</li> </ul>								
事業実施による環境の変化	自然環境に対する影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、施設の跡地等を活用した整備であることから、自然環境や生態系等へ及ぼした影響は特に見られない。</li> <li>山上拠点施設「やしまーる」は、自然環境との調和、融合が図られており、地場産業の活性化等にも大きな貢献を果たしている。</li> </ul>								
	生活・居住環境等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の結果、「特に影響はなかった」とする回答が8割以上となり、「悪い影響があった」との回答はごく僅か(2%未満)に留まり、事業の実施による周辺環境への悪影響は見られなかった。</li> <li>公示地価の推移から、本事業は周辺の地価にまで影響を及ぼす規模のものではなかったことを確認した。</li> </ul>								
社会経済情勢等の変化	社会経済状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により発出された緊急事態宣言は、国内外の観光動向に大きな影響を及ぼしており、本市及びモデル地区への観光へも大きな影響を及ぼした。</li> <li>市内の観光入込客数は、令和2、3年において急激に減少し、その後回復基調にあるものの、令和5年時点では依然としてコロナ禍前の水準までには至っていない。</li> </ul>								
	関連計画、関連事業の状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連計画、関連事業の中止や変更等が本事業に影響を及ぼした状況は見られなかった。</li> </ul>								
	事業環境等の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の必要性に関する市民及び来訪者のニーズは高い。</li> <li>実施にモデル地区を訪れた来訪者のニーズは、事業採択時と比べ大きく増加しており、事業の必要性を求めるものとなっている。</li> </ul>								
今後の事後評価の必要性	今後の事業評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の投資効果が十分であることが認められ、アンケートの回答者(市民及び観光客)の事業に対する賛同や良い影響を感じた等の意見を得たこと等より、一定の事業効果が得られたと判断できる。</li> <li>美しく優れた景観へと刷新が行われ、屋島の魅力がより一層高まるとともに、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、本市及びモデル地区の観光需要は回復傾向にあることから、改めての事後評価の必要性はないと考える。</li> </ul>								
改善措置の必要性	改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、多くの来訪者および市民から賛同を得ており、また、本事業に対する課題は特に生じていないことから、改善措置は不要と考えられる。</li> <li>ただし、現地ヒアリング調査においては、屋島に対する多くの意見が寄せられた。このため、観光客の貴重な意見を踏まえ、屋島再生に向けた取り組みを今後も継続していくことが重要であると考えられる。</li> </ul>								
同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性	同種事業の計画・調査のあり方や評価手法の見直しの必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>同種事業の計画・調査のあり方について、見直しを必要とする事項はなく、事業評価手法の見直しの必要性はないと考える。</li> </ul>								
対応方針	対応なし									
対応方針理由	-									
その他	<p>&lt;第三者委員会の意見・反映内容など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋島の現状が完全に活性化が図られたということではなく、費用便益比は一つの指標として、これからも継続的な取組が必要と考える。</li> </ul>									